**帰ってきたコースケ**

北村甲介

堀口由紀

北村昇

　　英恵

老婆北村千佳

山崎

霊能者寺田

〇老婆が家の廊下で外を見ている。田舎の一軒家。

その居間では遺影と骨壺を前に堀口由紀が手を合わせている。

その横には北村昇と英恵がわざわざ足を運んでくれてと由紀に感謝の言葉を述べる。遺影の主は北村甲介。実家の所沢に車で帰ってこようとしたのだが、交通事故に遭い死んでしまったのだ。由紀とは中学からの同級生でお互い気になる存在ではあったが、東京と所沢であまり会う機会もなく、去年の夏たまたまあった時にお互い彼氏彼女はいないと話したくらいだった。それが、突然電話がかかって来て、話があるからと甲介が言い出したのが事故に遭う前日だった。なにが言いたかった気になると言う由紀に英恵が、今まで契約社員だったのが、正社員になれた。その報告でもしたかったのだろうと言う。サッカーを高校までやっていたバリバリの体育系で、性格も一本気な為、空回りばかりして、仕事ができると言う方ではなかった。それが、何とか正社員になれたのが余程うれしかったのだろうとさえ英恵は言った。と、廊下の老婆北村千佳がコースケが帰ってきたと叫ぶ。何バカな事を言ってるんだと英恵が外を見ると甲介が千佳と談笑している。驚く英恵。その驚きを見て出てきた昇も驚く。甲介は笑って「ただいま」と言う。幽霊かと恐る恐る甲介に近づく二人だが、足はあった。「何じろじろ見てるんだよ」と言う甲介の体を恐る恐る触る二人。少し冷たいが多少は体温があるようだ。甲介がよみがえった事をどう理解したらいいか戸惑う二人。「甲介が帰って来たんだよ。英恵さん。ごちそう作らなきゃ」そう言う千佳の言葉に納得した英恵は頷き、幽霊の甲介を受け入れる事にする。すると、甲介が由紀に気づき、明日時間あるかと聞くが、由紀は明日から研修で大阪に行かなければならないと言う。甲介は仕方ないから待っているから戻ってきたら、連絡くれと言い、帰っていく由紀を見送るのだった。

〇四日後戻ってきた由紀が甲介はどうしたかと昇たちに聞くと由紀に話があるというので近くの公園に行ったと言う。そして、昇たちはこの四日間に起こった出来事を由紀に話す。

〇回想１遺影や遺骨を片す千佳。千佳は甲介は生きてるんだからこんなものいらないと言う。英恵も納得し、ごちそうの準備に取り掛かる。そして、

御馳走を前に四人での夕食。しかし、甲介は腹が減らないと言い何も手を付けずに寝てしまう。心配する英恵に千佳が「目で見て食ってんだろ」と言い、久しぶりのご馳走に大喜びする。

〇回想２幼馴染の山崎と出くわした甲介。化けで出たと思った山崎は必死で逃げるが、足の速い甲介にたちまち追いつかれる。山崎は借りた金を返していなかったから甲介が現れたと思い甲介に5万円を渡し、成仏してくれとひたすら手を合わすのだった。

〇回想３昇が調べた霊能者がやって来て、甲介を観察する。霊能者寺田の話では、

よほどこの世に思い残すことがあったらしく。その思いが体までも復元させてしまったのではないかと話す。昇たちは、甲介はバカだから自分が死んだことを分かっていないのではと思っているとも。寺田は成仏させるためにとバイオリンを弾くが、甲介は気持ち悪くなるだけだった。寺田は、甲介を成仏させるためには、甲介が思いを寄せる人が死んでいる事を教えてやるしかないと言い、去っていく。

〇元の家

英恵たちはこのままの形でも甲介にこの世に残って欲しいと思いだしていると話す。しかし、それも良くない事なので、由紀に甲介が死んでいるのだと教えてやって欲しいと言う。由紀は甲介に真実をつげる事を決心する。

〇公園

由紀が来ると甲介は色々な苦労の末やっと正社員になれたと話す。そして、これからの生活の目途も付きそうなので、結婚を前提に付き合わないかと話す。由紀は甲介の申し出を受けられないと言う。落ち込む甲介だったが、由紀は意を決し、甲介と本心では付き合いたいが、それができないと言う。なぜと聞く甲介に、由紀は甲介がもう死んでいるからだと告げる。驚く甲介。自分が死んでいる事に気づいていなかったのだ。甲介は、驚きながら、次第に体が消えていく。由紀を抱きしめたいが体が消えて残っているのは顔だけになり、「俺の気持ちは変わらないけど、由紀は幸せになってな」そう言い残し消えてしまう。

一人残った由紀。空を見上げて。

　　　　　　　　　　　　　　終わり